

■ 演奏者紹介

パスカル・ゴダール Pascal Godart

ピアノ

5歳からR.アントルモンにピアノを学び、パリ国立高等音楽院でY.ロリオに師事してピアノ、室内楽、伴奏法で1等賞を獲得。その後P.レアシュ、V.サハロフにも師事してクリーヴランドやミラノ、東京など各地のコンクールで入賞、中でも1996年にアテネで行なわれたマリア・カラス国際グランプリで10曲の協奏曲を弾いて優勝したことは特筆に値する。ヨーロッパのみならず、アメリカ、アジア各地の著名なオーケストラ、指揮者と共演。近年は室内楽にも力を入れ、P.ヴェルニコフ、N.グートマンと共演。指揮者としても活動し、2010年にはマリア・カラス国際グランプリの審査員、'14年にはジュネーヴ国際ピアノコンクールの事前選考委員を務める。'10年からローザンヌ音楽大学ピアノ科の教授、'22年からはピアノ科、伴奏法科の主任に就任、学内の刷新に貢献している。白馬音楽祭には第17回から参加し好評を得、今回7回目の来日である。



フローラン・エオー Florent Héau

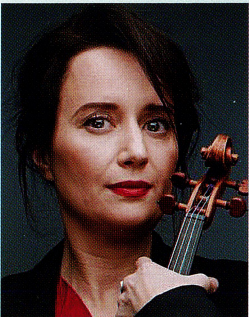
クラリネット

9歳からクラリネットを学び、オルレアン音楽院及びパリ国立高等音楽院でミシェル・アリニョンに師事して1991年1等賞を得て卒業。同年トゥーロン国際クラリネット・コンクールで第1位、2004年パリ国際室内楽コンクールのデュオ部門第1位。ソリストとしてブラハ、チリ、パリ、ポーランドなどの管弦楽団と共演、室内楽にも造詣が深くボロディン四重奏団、ブラジャーク四重奏団、シネ・ノミネ四重奏団らとも共演している。P・エルサンのクラリネット協奏曲を初演するなど、T・エスケシュ、G・コネソン、N・バクリなど現代の作曲家の初演にも積極的に参加。モーツァルト、ブラームス、ピアソラ、ベートーヴェンなど録音も数多い。多才なフローランはクラリネット音楽劇団「レ・ボン・ベック」の創設メンバーでもあり、気軽に楽しめるクラリネットとパーカッションのアンサンブルと極上のパフォーマンスを世界各地で披露している。バンク・ポピュレール財団の審査員も務め、その指導力にも定評があり、アリニョンのアシスタント教授として母校で教えたのち、現在はローザンヌ音楽大学、パリ地方音楽院教授。また大阪音楽大学、京都フランス音楽アカデミー、シオンのティボル・ヴァルガアカデミーでも客員教授を務め、世界各地のマスタークラスに定期的に招聘されている。管楽器メーカーのビュッフェ・クランボンのアーティスト兼テスターを務めている。

マチルド・ボルサレロ Mathilde Borsarello

ヴァイオリン

パリ国立高等音楽院でヴァイオリンをP・フォンタナローザ、J-J.カントロフ、R.ドガレイユらに、また室内楽をR.ムニエ、M.ブルグらに師事してディプロマを取得。2010年にコン・ティボー国際コンクールで第4位、レパートリーもテレマンからアルヴォ・ペルトまで幅広い。特に室内楽に力を入れ、F.ロット(ソプラノ)、R.デシャルム(ピアノ)、G.カプソン(チェロ)、O.パテ(クラリネット)、エベヌ四重奏団など様々な音楽家たちと共演し、その情熱は'12年ブルッフのピアノ3重奏曲作品5をトリオ・エスタンプと、また'18年にはG.ヘルマン(チェロ)、E.クリスティアン(ピアノ)と録音したシューマンの幻想小曲集のCDに結実した。同年にはC.シブニウス(チェロ)、A.カントロフ(ピアノ)と新しい三重奏団を結成。その間フランス国立管弦楽団に10年在籍し、K.マズアやD.ガッティの指揮で世界各地で演奏し、R.ムーティ、小澤征爾らの元でも経験を積み、トゥールーズ・キャピトル国立管弦楽団やリール国立管弦楽団など多くのオーケストラの第一首席奏者として招かれた。'17年には様々なバックグラウンドを持つ音楽家たちとフランス室内管弦楽団を立ち上げ、中東ツアーを行い'18年にはシャンボール音楽祭に出演。'20年からプソフォス四重奏団の第1ヴァイオリンとして参加している。



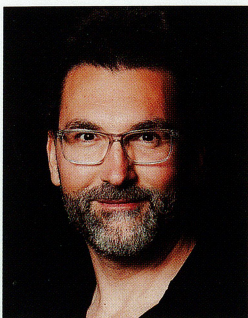
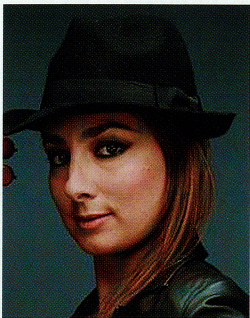
ブルーエン・ル・メートル Bleuenn Le Maitre ヴァイオリン

1998年リヨン国立高等音楽院のB.ガリツキのクラスを1等賞で卒業。在学中から室内楽に力を注ぎ、'97年プソフォス弦楽四重奏団を結成、ロンドン国際コンクール第4位、大阪国際音楽コンクール第3位、フィレンツェ国際室内楽コンクール第2位と次々に受賞後、2001年にボルドー国際弦楽四重奏コンクールで優勝を果たす。この四重奏団はBBCラジオ3の、才能あふれる若き音楽家たちを2年間コンサートやCD録音などの活動支援するプログラム'新世代アーティスト'にフランスの四重奏団として初めて選ばれ、'05年にはヴィクトワール音楽賞の年間最優秀アンサンブル部門にも選出された。その後はアムステルダムやロンドン、ザルツブルグの著名なホールに招かれ、ナントや東京などのラ・フォル・ジュルネやプロムスなど各地の音楽祭にも出演、著名な演奏家たちとの共演も多い。並行してパリ・モーツァルト管弦楽団の第2ヴァイオリンとしても活躍、ヨーロッパツアーではソリストも務め、'22年からはチェロ奏者のV.J.ラファリエールが企画発案した'コンスエロ・オーケストラ'に参加、パリ管弦楽団とも定期的に共演している。

セシル・グラッシ Cécile Grassi

ヴィオラ

ニースとパリの音楽院を卒業後、リヨン国立高等音楽院で学び1999年T.アダモブロスのクラスで1等賞を得る。早くから室内楽に転向し、在学中の'97年ル・メートルらとプソフォス四重奏団を結成、イザイ弦楽四重奏団やバーゼルのW.レヴィンの指導を受け、さらにアマデウス、アルバン・ベルク、ラサール、ハーゲンなど著名な弦楽四重奏団のマスタークラスを受講して腕を磨いた。数々の室内楽コンクールで受賞を重ね、結成間もない四重奏団だったが、前項のように様々な場面で高い評価を得、タイムズ誌にも「ヨーロッパの最優秀若手弦楽四重奏団」と称された。その後メンバーを替えながらもグラッシを中心にヨーロッパ各地の主要劇場、音楽祭に参加。さらにパリのアテネールイ・ジュヴェ劇場で独自の室内楽コンサートシリーズをプロデュースしたり、パリ国立シャイヨー劇場やリヨン・オペラのダンサーで振付師のP.デクフレと共演したり、ジャズピアニストのJ-M.マシヤドやサクソ奏者のD.リーブマンとコラボするなど、他の芸術家、俳優、演出家とも様々な活動を行ない、ユダヤやロマの音楽をレパートリーとするシルバ・オクテットとも定期的に演奏している。レコーディングも数多く、どれも批評家たちから表彰されている。



ギョーム・マルティニエ Guillaume Martigné

チェロ

R.ロストロポーヴィチの弟子だったM.ドゥロビンスキーに学んだ後渡米、ボザールトリオの創設者の一人で、P.カザルスの教えを受けたB.グリーンハウスに3年間師事。帰国後パリ国立高等音楽院でP.ミュレールの元でも研鑽を積み、いくつかの国際コンクールで優勝を含め7つの賞を受賞。すでに13歳の時にA.ルディン指揮のムジカ・ヴィーヴァや、D.リス指揮のウラル・フィルハーモニー管弦楽団などロシアのオーケストラと沢山の協奏曲を演奏し、その後もM.アルグリッチ、I.ギトリス、M.マイスキーなど著名な音楽家たちとも共演を果たし、フランスの主要ホールをはじめ、60ほどの国で演奏した。彼の演奏はYoutubeでも見られるが、ブリテンの無伴奏チェロ組曲の録音はフランス国営公共ラジオチャンネル'France-Musique'のベスト盤に、またクラシカ誌でも4つ星を受賞。'22年ピアノの広瀬悦子とベルギーの知られざる天才作曲家A.ピアランのチェロソナタを録音して話題を呼んだ。プソフォス弦楽四重奏団のメンバーも長年務め、使用楽器は1692年のロジェリ。

南波 美月姫 Mizuki Namba

ハープ

3歳よりハープを始め篠崎和子、篠崎史子両氏に師事、ピアノを水月恵美子、佐藤勝重、室内楽を上森祥平、段田尚子、さらにハープ・オーケストラスタディを井上美江子、声楽を藤川泰彰、指揮を篠崎靖男各氏に師事。2018年日本ハープコンクール・ジュニア部門優勝を皮切りに大阪、香港の国際ハープコンクールもそれぞれ優勝、'22年草加・日本国際ハープコンクールアドバンス部門を最年少優勝、'23年ベルリンのエウテルペ音楽賞国際コンクール第1位、'24年パリのレオポルド・ベラン国際コンクールジュニアハープ部門及び、プロフェッショナル部門第1位。さらにフランスでもA.ル・ロア、Ch.マチュー、N.トゥリエ、D.ユー、I.モレッティらにも学び、'22年サントリーホールの大演奏会に出演、'23年にはリサイタル、'24年調布国際音楽祭に出演。今年もヴァイオリンの及川悠介とデュオリサイタルを開催した。幼少時より介護施設などでのボランティア演奏を続け、府中の森芸術劇場では10年以上にわたり茶道を取り入れた演奏会を企画するなど親善活動にも力を入れている。現在桐朋女子高校音楽科に特待生として在学中。



川道博子リュイエ

音楽総監督

声楽家。京都生まれ。スイス在住。美山節子、坂根豊子に師事、桐朋学園大学音楽学部声学科卒業。東京二期会所属後、スイスのローザンヌ音楽大学でJ.ビーズに師事してディプロマを取得。「フィガロの結婚」のスザンナ役でデビュー後、オスカル、ノリーナ、フラスキータやミミ等の役でスイスやフランス各地のオペラに出演、ソリストとしてもイタリア、チェコスロヴァキアやサンクトペテルブルクにおいても幅広いレパートリーの音楽活動を続けた。E.タピ、L.サルティ、E.シュヴァルツコップ等にも師事し、A.ジョルダン、M.コルボー、P.マーク等の指揮下でも出演する。長年母校のローザンヌ音楽大学で教鞭をとり、エヴモード・ユヴォー(メゾソプラノ)、ジェレミー・シュッツ(テノール)を始め数々の歌い手を育て、現在も若手の生徒を指導する傍ら、パリやマコン、スイス各地の音楽学校やコンクールの審査員を務め、音楽活動を続けている。2005年以来白馬国際音楽祭に参加、'07年からは音楽総監督として意欲的なプログラムを企画している。